



かけがえのない命

今、滋賀県大津市の中学2年生の自殺について大きく報道されています。このニュースを聞いて、心を痛めている人もたくさんいるはずですよ。

今から4、5年前にもいじめが大きな社会問題になりました。平成18年「今年の漢字」に『命』が選ばれたのも、いじめによる自殺が相次ぎ、かけがえのない命の重みを痛感した年であったからだと思います。また、自殺予告の手紙が出回ったことを受け、「なくせいじめ自殺～私のメッセージ」「いじめられている君へ」「いじめている君へ」と題したメッセージが毎日のように新聞報道されました（下の★印）。さらに、安倍内閣メールマガジンにも、当時メジャーリーグのニューヨーク・ヤンキースに所属していた松井秀喜選手の『君は一人じゃない』というメッセージが掲載されました（下の☆印）。

- ★ 最初から間違っただ子どもは一人もいない。生まれたときは正義感を持っているのに、大人社会を見るときで、「いじめてもいいんだ」と大人が教えてしまっている。競争社会の中で、子どもに「頑張れ」と言うが、「人として他人の命を軽んじていけない」という当たり前のことを教えてこなかったのではないか。（長野県教委課長：前島章良）
- ★ 狭い空間に押し込められると、鳥でも突き合いをする。子どもたちは見えない壁に囲まれている。でも、生きてると、自分を囲っていた壁がいつの間にか扉になって向こう側に開くんだ、出口があるんだとわかる経験がきっとある。（作家：あさのあつこ）
- ★ この世の中は、あなたが思うよりずっと広いのです。あなたが安心して生活できる場所が絶対にあります。（劇作家：鴻池尚史）
- ★ ひどいことをしているとき、心から楽しいと思っている人はいません。君がだれかをいじめているとしたら、どこかで、そんな自分を嫌だと思っていることでしょう。その気持ちにふたをして毎日をごろしているのだらうと思います。君には、勇気を持ってそのふたをあけてほしい。ひどいことをするのは嫌だと感じている君は、とてもかっこいいと思います。君の中にいる、そういう自分を大事にして、いじめをやめる努力をしてみてください。（演出家：宮本亜門）
- ☆ 理由が何であれ、人として卑怯なことをしてはいけません。卑怯とは、勇気がなく、物事に正面から取り組もうとしないことを言います。そう、正々堂々としていないことです。
- ☆ スポーツや世の中にはルールがあります。卑怯な行為は反則です。当然、その卑怯な行為の中には「無関心」も含まれます。あなたの周りにいじめられている人がいるならば、ぜひ勇気を持って「いじめはよくない」という声をあげてほしい。その勇気あるあなたの最初の声が必ずや「周りの人の心を動かす」と僕は信じます。

他県で起こった事件だから…ではなく、身近な問題として真剣に考えてほしいと思います。

駆け上がれ！夏のテッペン

浦島伝説第2号で、春の高校野球香川県大会で優勝した小豆島高校の話題「スーパーアグレッシブ」を掲載しました。あれから3か月、夏の高校野球が開幕し、甲子園を目指した戦いが始まりました。

上の言葉は、朝日放送の高校野球キャッチフレーズです。そして、高校野球応援ソングに、GReeeeenの『pride』が選ばれました。下の歌詞はその一部です。

明日、再び地区総体の日を迎えます。「負けない心」と「諦めない勇気」で最後まで戦ってください。たとえ負けたとしても、部活は終わったとしても次につながるものがあるはずですよ。

あなたの目指す「テッペン」は、まだまだ遙か彼方かもしれません。

どんなに苦しい時でも 弱音を吐く方が悔しい

絶対 限界なんて言わないと決めた

どんなに悔しい時でも 立ち止まる自分が苦しい

未来の 僕らに 気付いた日からずっと

憧れていた 追いかけていたい 負けない心と諦めない勇気

例え少しでも 走り続ける事で道標が変わる 必ず さあ進もう